

ふくいじょうあと 7. 福井城跡

所在地：福井市中央1丁目

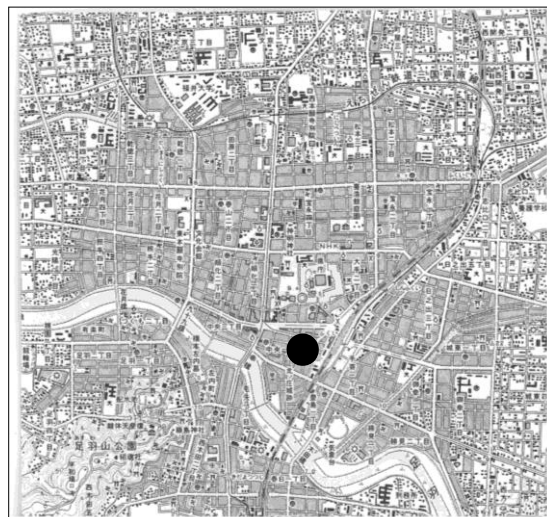
調査原因：中央1丁目10番地区優良建築物等
整備事業

調査期間：平成31年1月15日～2月22日

調査主体：福井市文化財保護課

調査面積：150㎡

時代：近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 今回の調査地は、絵図によると「東外曲輪」と百間堀の境付近に位置しています。試掘調査をしたところ、近世の生活面は前の建物によって壊れていましたが、百間堀石垣の下段が残っていることが分かりました。そのため、調査は石垣部分に範囲を絞って実施しました。

遺構 百間堀石垣を南北方向に約30m分確認しました。石垣石は、高さ40～50cm、幅40～60cm、奥行50～70cmの笏谷石で、積み方は布目積みです。最下段の石である根石は、上段の石に比べて整形が粗く、変色していることから当時は常にこの高さまで水に浸かっていたと推測できます。根石の下には、石垣の並びと平行する方向に木が一本敷かれていました。これは胴木と呼ばれるもので、石垣石が沈み込んでしまうのを防ぐ役割を果たしていました。

また、石垣の前面にも笏谷石の石列を確認しました。石列の中には石垣石よりも大きなものもあります。これは石垣の崩落を防ぐための「犬走り」だと考えられます。同様のものが現在の中央公園を整備した際の石垣調査でも確認されています。

百間堀は福井城築城の際に旧吉野川を堀に改修したものですが、断面の観察から、吉野川の砂層の上に粘土と粗砂で造成を行い、その上に石垣をつくっていることが判明しました。

遺物 堀内からは近代の陶磁器や、時期不明の石瓦などが出土しました。これらは百間堀を埋め立てる際に混じったものだと思います。

まとめ 今回の調査では百間堀石垣の位置を確認することができました。石垣のラインはこれまでの想定よりもやや西側にずれることが判明しました。また、百間堀を築造する際にどのような工事が行なわれたかについての知見を得ることができました。 (山場愛弓)



図1 調査地位置図

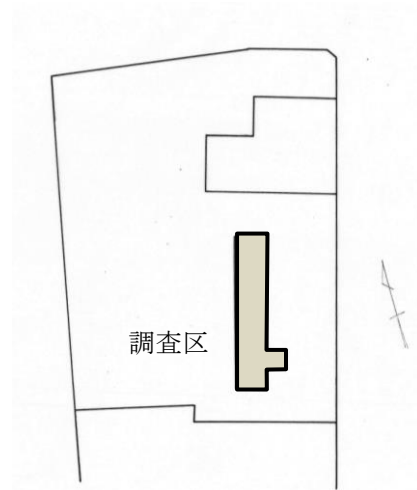


図2 調査地平面図 (S=1/1500)



写真1 石垣 (南西から)



写真2 犬走り (北から)

石垣ライン

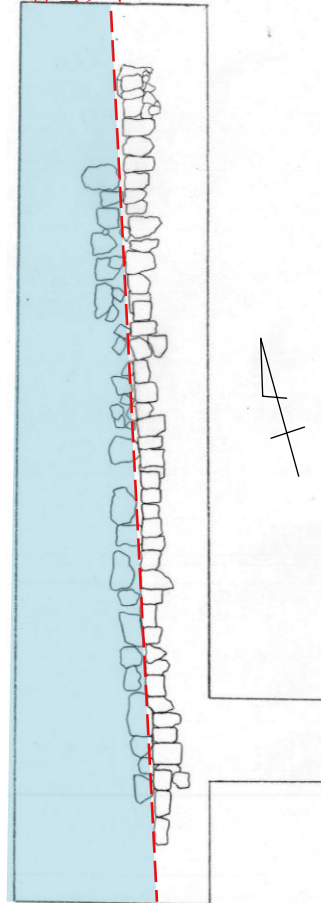


図3 調査区平面図 (S=1/200)